



友達、親戚、家族、兄弟姉妹、これを読んでくださる皆さんへ 2024年4月1日

再び春です！皆さん元気でしょうか？皆さんが元気にしておられることを願っています。

四季。どの季節も、それぞれ美しいと思います。春は、「希望」という言葉が似合います。「復活」という言葉も似合うと思います。イエス様からもらった歌、「胸に見た」の一節を思い出しています。

死んだような枝でも また芽吹く春には
夜の後に朝が来 闇は消え去る
この身は朽ち果てても また生き返る
神の言葉の証^{あかし} 今 胸に見た

知っているのです。

私たちは、知っているのです！

聖書には「知っている」という言葉が多く書かれています。それともう一つ「信じています」というのもよく書かれています。そのことは、イエス様に信頼して生きる私たちを励まし、力づける言葉として、イエス様も、また、聖書に出てくるイエス様を「信じている」人たちによって使われています。そのいくつかを書いてみます。ローマ5：1～4、ローマ8：28、1コリント15：58、IIコリント4：13、4：14

信仰・信じなければならぬ？

私自身はあまり使わない言葉ですが、聖書には、「信仰」という言葉がよく出ます。その言葉

を使った1節に「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです。」（ヘブル11：6）があります。

この言葉の最後の、「…信じなければならぬのです。」は、ちょっと誤解される可能性を感じます。私の思い出す限りでは、聖書のこ

ういうことかということ、信じるということ

が、自分の力でできることのようにとられる可能性があると思うのです。

「信じなければ」というのが、誤解を与える気がします。しかし、ここに書いてあることは、イエス様をすでに知って、イエス様を信じて生きている人の心の状態を言っているのであって、自分の力で頑張って信じて生きることを言っているのではないのです。もしそうなら、人生、疲れきりますね。

与えられるもの

「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは（偉大なものは）愛です。」（Iコリント13：13）

イエス様の導きによって、イエス様を伝える人となったパウロが、そのように説明しましたが、その言葉の、私の生活の中での説明は、「神



が愛である」のを「知って希望が生まれ」、そして、「イエス様を信じて生きられるようにさせてもらった。」「それは、いつまでも続きます。」私は、ゴスペルをそのように信じています。このことは、神の聖霊が、誰でもイエス様を求める人の心に教えてくださると私は確信しています。以下が、そのことに関して、イエス様が言われたことです。

「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。」

(マタイ7:7~8 イエス・キリスト)

イエス様のこの言葉から、信じることも、また、信仰も、イエス様を求める人の心に、イエス様が与えてくださるものと、私は確信しています。そこには、イエス様の下さる、平安と喜びがあります。

知っているのです。

以前、何回か書いたと思いますが、もう一回「希望」。

希望は、それが真実（真理）だと、すでに知って、信じていることから来るのです。

真実だと知らないことを、ただ、そう願って期待してるのは、hopeでなくてwishです。hope「希望」は、すでに知っている天と地の全てのものの造り主なる神に対してであって、間違いなく信頼できる方に基づいているのです。だから、人はイエス様とイエス様の言葉を信じることができるのです。そのことは、神から頂いた聖霊の働きなのです。

そのことを、1コリント15章19節で、「もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望(wish)を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。しかし、今やキ

リストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」その真実を知らないで、「そうだったらいいな～」と願っているのなら、それは、あわれなことです。このことからわかりますが、希望は、人を愛しておられる神を知ることから始まるのです。そして、誰でも、知りたいと求める人は神を知れるのです。

弱い私は、知らない時があるのです。

(ペンキを塗っていた時のこと。)

ハワイ島のヒロは雨が多いので知られています。二つの高い山が島の北と南にあるので、東の方からの雨雲が島の東側で止まり、ヒロに多くの雨を降らせるのです。とは言っても、時には、長い干ばつもありますがあ。

2月に入ってから雨が降り続けました。昼・夜と何日か降り続けることもありました。1日の内に、降ったりやんだりする日も多く、今、やんでいたかと思うと、また降り出し、ちょっと日がさしたかと思うと、何と、今度は土

砂降りになるという具合で、野外活動の計画はなかなかうまくいかないことが多いのです。でも、地元の人にはそれに慣れていて、傘を持って人？傘を使う人？ほとんど見ません。かなり降っていても、ぬれながら歩く！雨だからといって走ってる人？ほとんどいない！ここに引っ越してきた頃、私たちは、それを見て、たまげた～～！一年中暖かいから、ぬれても、すぐ乾くんですな。「春雨じゃ、ぬれて参ろうか…」私も、走りませんよ。笑。

3月はじめ、2日続けて曇りの日があった。当たらない天気予報だが、ネットで見ると、これからはしばらく曇りの日が続くと出ている。帰国するまでに、どうしてもベランダのペンキを塗り終えたい！時間がない！次の日、イエス様にお願いしてペンキを塗り始めました。その日は、一日中



曇りで、ベランダのだいたい3分の1くらいを塗り終えました。2日目も曇り。その朝は、海側＝東側（海まで6～7キロある）のベランダを塗っていました。昼間はだいたい毎日、海の方から風は吹いてきます。塗っていると冷たい風が黒雲と一緒に吹いてきました。それは、しばらくしたら、雨がやってくるという知らせです。いつものパターンです。今にも降りそうです。「イエス様、どうか、雨を降らせないでください」とお願いしながら、やめないでペンキを塗り続けました。雨が降れば、朝から塗ったペンキは台無しです。複雑な気持ちです。「イエス様、雨を降らせないでください」と何度も声に出して言いながら、塗り続けました。雨は今にも降りそうです。でも、まだ降らないのです。「雨が降るかも…」の思いが私の心にきました。でも、雨は降らないのです。手を休めないで塗り続けていたら、急に涙が溢れてきました。実は、その時、私は、イエス様が、ラザロを甦らせた時のことを思い出させてもらっていたのです。

知っておりました

イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだ人の姉妹マルタは言った。「主よ。もう臭くなっておりましょう。四日になりますから。」イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて、言われた。「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っておりました。しかしわたしは、回りにいる群衆のために、この人々が、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じるようになるために、こう申したのです。」そして、イエスはそう言われると、大声で叫ばれた。「ラザロよ。



出て来なさい。」すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたままで出て来た。彼の顔は布切れで包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」そこで、マリヤのところに来ていて、イエスがなさったことを見た多くのユダヤ人が、イエスを信じた。（ヨハネ 11：39～45）

イエス様は、天の父が、イエス様の願いをいつも聞いてくださるのを知っていました。それは、イエス様が、何をするにも、いつも、天の父が言われる通りに従っていたからです。父は子を愛し、子は父を愛して、イエス様は、いつも父の御心を行っていました。（ヨハネ 6：38）ですから、死んだラザロを生き返らせるイエス様の願いを、父が答えてくださることを、イエス様は知っていたのです。しかし、私は違います。私は、イエス様に雨を止めてくださるようお願いしましたが、絶対止めてくださると信じられないのです。それは、私が、父の御心に、時には忠実でないからです。私は、時々そのことを考えるのです。私は、自分のイエス様への願いを、イエス様が聞いてくださるかどうかわからないことで、自分がイエス様に忠実でないことを考えさせられていたのです。それなのに、イエス様は、今にも降りそうな状況の中で、私の願いを聞いてくださって、雨を止めてくださっているのです。そんな不信仰な私は、イエス様に優しくしてもらって、泣いていたのです。私がイエス様に忠実でない時でも、イエス様は天の父に忠実で、私にあわれみ深く、優しいのです。イエス様、ありがとうございます。私を、続けてあわれんでください。あなたの御心をするように私を助けてください。これから何度も、よろしく願います。その日、夕方まで雨は全く降らないで、私は、ベランダの3分の2くらいを塗り終えました。「神の栄光です！」イエス様、ありがとうございます。

知っていたら？知っているのです！

最後は、マタイの24章から「わたしは帰って来る。」と言われたイエス様の約束の言葉に立った、私たちの毎日の生活。

「だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。しかし、このことは知っておきなさい。家の主人は、どろぼうが夜の何時に来ると知っていたら、目を見張っていたでしょうし、また、おめおめと自分の家に押し入れはしなかったでしょう。だから、あなたがたも用心していなさい。なぜなら、人の子は、思いがけない時に来るのですから。主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食事をきちんと与えるような忠実な思慮深いしもべとは、いったいだれでしょうか。主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。」 (マタイ24:42~46)

このイエス様のたとえ話は、私たちにその状況を想像させ、感じさせ、考えさせる、優しいたと

え話だと思えます。とてもわかりやすい。イエス様が帰って来ることに基づいて、「それでは、今日、いかに生きるべきか？」を、また、思い出させます。私は、このたとえ話から想像するのです。もし、盗人が、私の家に、夜中の何時に来るのかを「知っていたら」、私は、必ず、それに対応する準備をします。間違いありません。それを「知っていて」、私が用意しなかったら？(ちょっと考えられませんが、)私は賢明ではありません。愚かです。

私たちはイエス様が、いつ来られるか知らないのです。しかし、イエス様が来られることは知っているのですから、そのために、私たちは準備をしているのですね。いつ来られるか知らないので、そのことを忘れてしまいがちです。私は、忘れる者です。特に、最近、いろいろなことを忘れず。イエス様、私たちは、あなたが来られるのを知っているのですから、どうか、それを忘れないで、いつも、心の用意しているように助けてください。ありがとうございます。



4月・5月のLIVE Information

4月14日(日)	市立伊丹ミュージアム	06-6427-4976	川辺
4月20日(土)	三公記念館	〒779-3604 徳島県美馬市脇町大字北庄421-1	0883-53-8397
4月21日(日)	〒779-1105 徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	0884-44-2450	川端
4月27日(土)	アルプスシオン教会	〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1490-19	0265-81-5389 細田
4月28日(日)	めじろ台シオンチャペル	〒193-0833 東京都八王子市めじろ台4丁目35-19	042-663-1310
5月3日(金)	キリストのぞみ教会	〒743-1421 静岡県掛川市大坂3456-42	
5月5日(日)	浜松クリスチャンセンター	〒430-8005 静岡県浜松市西区神ヶ谷2048-3	090-8188-4097
5月9日(木)	関東学院大学金沢八景キャンパス	チャペルタイム 12時35分~12時55分	
		〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1	045-786-7218
5月10日(金)	関東学院大学金沢八景キャンパス	チャペルタイム 12時35分~12時55分	
		〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1	045-786-7218

ザ・デイ / 森繁 昇

〒744-0019 山口県下松市桜町2丁目17-24

FAX▶0833-91-6492

E-mail▶thewindisblowing@hotmail.com

HP▶<http://thedaywill.com>

振替口座▶01330-4-93687 ザ・デイ

Noboru Morishige

P.O.BOX 1666

KEAAU, HAWAII 96749 U.S.A

TEL▶808-966-9252